

与  
那  
城  
村  
史

# 与那城村史

## 本文目次

### 序 文

第一章 与那城村史序の巻	1
第一節 おもろ時代の屋慶名中道	1
第二節 古琉球史を飾るはなれ三島	6
第三節 浦添中山王時代の与那城方面	8
第四節 与那城半島地誌	15
第五節 与那城王子尚懿王	19
第六節 勝連から眺めた薩琉戦争	28
第二章 与那城間切の新設	33
第一節 勝連は首里王府の要石	33
第二節 勝連節と伊計離節	38
第三節 甘藷と念仏が勝連半島に伝わる	41
第四節 勝連王子家の風雅な生活	43
第五節 与勝分離前の与那城島村の実力	48
第六節 島津支配下のクゲー（公界）と向氏勝連按司朝賢	51
第三章 与那城間切の発足	79
第一節 行政組織と甘蔗作	79
第二節 与那城間切の芸術的環境	83

### 第四章 与那城村部落誌

第一節 伊計島の今昔	111
第二節 宮城島Ⅱ（高離島）	119
1、上原	120
2、宮城	123
3、池味	125
4、桃園	128
第三節 平安座島	132
1、まえがき	132
2、地理	133
3、島の人文略史	133
4、島の生活様式	135
5、島の資源	137
6、平安座の民俗	139
7、毎日の食事	141
8、節目の料理	143
9、住居	145
10、社会生活	148
11、一生の儀礼	149
12、年中行事	153
13、平安座のウスデーク歌	169
14、詩人世礼国男（人物伝）	181
第三節 与那城間切の古神道	86
第四節 ウスデークと綱引きと七月エイサー	93
第五節 十七、八世紀の与那城間切	103

第四節 屋慶名の今昔		
1、平安座と屋慶名	191	188
2、屋慶名の土帝君と耕地拡張	188	188
3、沖縄県振興計画と与那城村	196	196
4、与那城村と勝連村の村勢	202	202
5、与那城村と勝連村の実力	203	203
6、屋慶名の結婚習俗とウスデーク	212	212
7、大庭正次と与勝近代史（人物史伝）	226	226
一、序文	228	228
二、予の生立	230	230
三、教員生活	231	231
四、政治生活	234	234
五、実業生活	241	241
六、家政を整う	247	247
七、字の神々と我が祖先の由来	248	248
8、戦後の屋慶名	251	251
9、屋慶名の地形と文献	257	257
10、上杉県令の与那城間切巡回	259	259
第五節 照間の今昔		
1、屋慶名と照間	264	264
2、兼城静と与勝の教師たち	266	266
3、照間ビীগ	269	269
4、照間と屋慶名城	271	271
第六節 饒辺と安勢理		
1、屋慶名と饒辺	274	274
2、饒辺のウスデーク	276	276

第五章 与那城間切二百年通史（前編）		
第一節 「琉球由来記」の編集方針		303
第二節 収納奉行（中頭方代官）		306
第三節 与那城間切の地頭代と村掟		309
第四節 与那城間切の地方自治		310
第五節 与那城間切の祭祀崇所		315
第六節 首里と与那城の文化交流		320
第七節 蔡温治政下の与那城間切		322
1、蔡温と平敷屋朝敏	322	322
2、円覚寺でのウスデーク禁止	322	322
3、名護親方と農村	324	324
4、浦添の農民怠業に参加	325	325
5、刑律の完成と民百姓の平和	326	326
第八節 与那城間切の農政		
1、番所の職務	327	327
2、与那城間切の製糖高	329	329
第七節 与那城部落の今昔		
1、二才が美らさや与那城	291	291
2、農村としての字与那城	293	291
第八節 西原		
1、城下町字西原	295	295
2、戦後の西原の発展	298	298
3、平敷屋朝敏と「西原の里」	300	300
3、組踊 屋慶名大主敵討	278	278
4、饒辺発展略史	289	289

3、与那城間切の税負担	332
第九節 むた島袋之「仕明請地帳」	334
1、ナポレオンの見た琉球の夢	334
2、与那城間切の開墾	336
第十節 与那城間切に湧く愛国的情熱	340
1、那覇大綱引見物に参加	340
2、波之上の眼鏡	343
3、琉米修好条約の成功	345
第十一節 薩英戦争と与那城間切	346
1、与那城王子	346
2、薩英戦争見物の話	347
3、自由の残された農村	348
第十二節 廢藩置県	349
1、「疲れ間切」に入らなかった与那城間切	349
2、琉球藩時代の与那城間切	351
3、はいばんのゆう	353
第六章 与那城間切二百年通史（後編）	361
第一節 沖縄県与那城間切	361
1、美里分署と与那城間切在勤官	361
2、中頭郡役所と与那城番所	362
3、上杉県令の与那城間切視察	365
4、黒糖時代の与那城間切	367
5、屋慶名掟 <small>うつち</small> の三味線	369
6、与那城小学校	371
第二節 与那城間切役場の新制度	373

1、日清戦争後の与那城間切	373
2、間切長と収入役	374
3、中頭郡与那城間切	377
4、松元栄之丞校長とハワイ移民	379
第三節 与那城間切の日露戦争	383
1、与那城間切の出征兵士	383
2、日露戦中の大旱ばつ	387
3、学事の発展	389
第七章 与那城村近代通史	393
第一節 与那城村誕生	393
1、「村」と「字」	393
2、沖縄県与那城村	395
3、第一代村長大庭松慶の決断	398
4、明治末年と大正元年	401
第二節 大正時代の与那城村の政治行政	402
1、与那城村の県議選挙戦	402
2、県政と村政と国政	404
3、教育の場としての字平安座	406
4、浮原島における糸満と浜比嘉戦争	409
5、与那城村と那覇・与那原	414
6、大将三年の取巻く和那城村	420
第三節 第一次世界大戦時の与那城村	420
1、黒砂糖の勝連与那城	420
2、教育村是の与那城村	425
3、世界大戦と県農二中騒動	428

	第八章 戦後の与那城村通史	453
	第一節 与勝人物誌	461
	1、村自治への発足	461
	2、与勝出身の立法院議員	463
	3、沖縄教育会の与那城色	468
	4、仲里喜俊氏の教師像	472
	5、島袋正輝氏の教師像	477
	第二節 与勝海上公園の指定	479
	1、聖地ヤブチ島	479
	2、海上公園指定の美挙	482
	3、コザ市と与那城村	485
	4、軍用地の最も少ない与那城村	488
	5、復帰前の平安座魂	492
	第三節 与勝海上公園指定解除まで	497
	1、国策と与那城村政	497
	2、区長と村政	504
	4、デモクラシーへの与那城村	431
	5、沖縄の中の与那城村	434
	6、県政と村政	437
	第四節 与那城村の県政進出	439
	1、県会議員としての真境名安明	439
	2、新垣金造の舞台	442
	3、十月十日の平安座空襲	447
	4、戦争地図	451
	5、非常有事回顧	453

附 録

	(一) 与那城村史資料室	527
	1、朝鮮地図の中の伊計城	527
	2、与那城村産の牛の皮	529
	3、与那城村史料としての「琉球奇譚」	531
	4、与那城海域から発明された「潮の干潮表」	536
	5、海の無い普天間へのあこがれ	537
	6、内間・饒辺の婦人像	539
	7、与那城村と勝連村との接点	541
	8、阿麻和利と護佐丸	543
	9、与勝の年中行事抄	548
	10、シヌグ遊び	557
	11、一厘銭の与那城村史	562
	12、ロンドン版地図の中の与勝列島	571
	13、ひやむぎ島の墓(金城研一氏の絶筆)	579
	14、照間・与那城のビーグの薬効	581
	15、民話的弁当馬場時代	588
	3、与勝海上公園の指定解除	509
	第四節 与那城村議会	512
	1、村長の交替	512
	2、奥田良正光村長の施政	513
	3、村章と村歌	515
	4、よあけ与那城	517
	5、結びの歴史学	521

	(二) 年表	614
	1、按司時代	593
	2、首里直轄時代	596
	(三) 与那城市民読書室	614
第一課	「与那城地域地図」と「平敷屋朝敏廟」	616
第二課	「沖繩本島に於ける門中（本家）の機能」と浜島	620
第三課	沖繩大学生の伊計島調査	632
第四課	金武湾港における与那城地域の地位	632

614 596 593 591

# 与那城村史

昭和五五年一月三十一日 印刷  
昭和五五年二月二十日 発行

編集執筆者

発行所

印刷

製本・整丁

与那城村役場

与那城村長

栄光堂印刷

悦田生本所

新屋敷 幸繁  
奥田良 正光

沖繩市字比屋根一四二六番地  
電話〇九八九三一七四二九七  
悦田生本所  
電話〇九八八一八九一一二三五